

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372102216		
法人名	株式会社 ナンプ		
事業所名	グループホーム リズム		
所在地	岡崎市若松町字西之切50		
自己評価作成日	平成30年10月20日	評価結果市町村受理日	平成30年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2372102216-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2372102216-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成30年11月13日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・長閑な環境の中で、利用者様がその人らしい生活が行えるように援助しております。誰かひとりの方が、退屈な時間を過ごされないように職員一人一人が、工夫して個々の能力に応じていろんなことに取り組んで頂いております。季節に応じた菜園の畑の耕し作業、種まき、収穫とお願いしています。  
 ・御家族様の結びつきを大切にしています。手紙のやりとりや御家族様と一緒に外出へ行って頂いたり、病院への付き添いなど入居後も心身安定の為をお願いをしています。年末には御家族様やご友人を招いての忘年会を企画して、一緒に楽しんでおります。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

6月に管理者が着任し新体制の構築に向け取り組んでいる。管理者は、これまで通りの理念「いたわりあい・たすけあい・おだやかに・ともにくらす」を継続するために、職員に対して何時でも話が出来る体制をとり、職員からでた自主的な意見を尊重し、利用者・職員が理念である「共に助け合いながら暮らすホーム」を目指している。  
 職員間の信頼関係は厚く、風通しの良い環境である。家族アンケートで回答者全員が「介護計画の説明を受け一緒に話し合っている」と回答しており、家族参加のサービス担当者会議の開催を行い達成可能な介護計画書が作成されている。  
 家族と外出する利用者は毎回「外出届を」書くことを目標にしており、家族面会を楽しみにしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見える位置に事業所の理念「いたわりあい・たすけあい・おだやかに・ともにくらす」を掲示し、常に確認できるようにしています。	理念『いたわりあい・たすけあい・おだやかに・ともにくらす』を掲げている。理念を展開し、日常的に職員が見守り、「互いに助け合い、いたわりあい、家庭的な雰囲気作り」に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・総代さんとの関係を密に取り、地域行事には積極的に参加している。 ・学区の資源回収に参加している。	小学校の生徒が来訪し合唱の披露や訪問授業がある。障害児施設の児童との交流や、子供神輿の立ち寄り所にもなっている。学区の夏祭りには総代が駐車場を案内する等双方向の交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・会社として、認知症カフェを行ったり認知症サポーターの講座を開催したりしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域総代・民生委員・介護相談員・ご入所者様、ご家族様の方々に主席して頂き、運営状況などの報告を行っています。	地域総代・地域包括支援センター・民生委員・家族・利用者・知見者・介護相談員の参加を得、事業所の行事や状況を報告するとともに、要望や助言を頂き、サービス向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退所の報告や介護保険についての相談、派遣事業の介護相談員の受け入れを行っております。	地域包括支援センター職員・介護相談員の運営推進会議への出席がある。介護相談員の受け入れによりホームの状況は行政によく理解されている。市主催のグループホーム小部会に参加しホーム運営に取り入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、二か月に一度会議を行い、現状の把握や確認、改善を行っています。施設全体で身体拘束についての研修会を開催し理解を深めるよう職員に教育しております。	複合施設の一階に位置しており正面玄関やユニット間の施錠はない。管理者・職員は共に身体拘束の重要性を認識しており、研修を通して周知を凶っている。中庭には何時でも出ることができ、自由に散歩を行なっている。言葉についても職員間で注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束排除委員会と併せて現状の把握や確認、改善を行っています。施設全体で虐待防止の研修会を開催し、虐待の理解と防止の教育を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修会を開催しています。外部研修などへの参加を行い、制度への理解を深められるように努めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定時には、ご本人様及びご家族様へ納得して頂けるまで説明し、その上で同意を得られるよう努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会などで意見交換をする機会を設けております。また、担当者会議や面会時などに随時ご意見ご要望を頂き、随時対応やご返答を行っています。	家族の面会時に職員は利用者の状況を伝え、意見等が言い易い関係を築いている。家族アンケートでは「少しのことでも連絡・相談の電話をしてください問題がある場合解決が早い」等好評を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所ミーティングを月に1回開催し職員への伝達や意見交換などの場を設けています。又職員からの意見を取り入れ、業務改善や毎月の行事、ケアの方法等意見を言いやすい雰囲気を作っています。	管理者は「風通しの良い職場」をモットーとしているため、随時意見を聞くように心掛けている。職員ヒアリングにおいて「いつでも話しやすく信頼している」と聞くことができた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数・職責・人事評価結果に応じた給与設定、資格取得に対する報酬制度などがあります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員指導員を設け、マンツーマンで指導しております。また、個々のレベルに応じた各種研修会を開催し、新人・中堅・指導員・サプリーダーへの教育を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム小部会・連絡協議会中三河ブロック交流会に参加し、施設見学や研修会を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居される前には面談を行い、ご本人の困っていることや要望を伺う機会を作り計画を作成しております。安心して生活して頂けるように職員から積極的に話しかけております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・担当者会議時にはご家族様のご要望を伺うようにしています。 ・ご面会時には、管理者がご挨拶をすると共にご要望を聞ける関係づくりができるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・状況に応じてご家族様に適したサービスが提供できるように適宜ご相談をさせて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・家庭的な雰囲気の中で、それぞれ役割を持って頂くことで、生活を共にする関係を築けるように援助しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会の機会を多く作り、遠方の方には手紙のやりとりを行っています。 ・外出を定期的に行えるように、常に情報共有を密にとっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・御家族様以外にも面会ができる体制を作っております。馴染みの美容院に行かれています方もおり、これまでの関係を続けられるように支援しています。	家族の協力を得て、美容院・外出等に出かけている。孫や家族との文通が継続出来るように支援している。複合施設のデイサービスの催し物に出掛け新しい馴染みの関係がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・個々の状態や能力を職員が把握し、利用者同士が交流を図れるように支援できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・サービス終了後も窓口を開き、生活相談が行える体制を作っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・何かお願いする時には、必ず意思を確認し無理強いをしないようにしています。	日常生活の関わりの中で、利用者のなにげない言葉や表情から意向を汲み取るようにしている。家族の繋がりを続けたいとの思いから文通が始まり継続出来るように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・居室には家族の写真やこれまで使われていた家具などを持ち込んで頂き、生活環境に変化が生じないように努めています。これまで使われていたサービスに関しては、情報を取り入れ培った能力が維持できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・心身状態によっては、静養する時間を作り安楽して生活できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・担当者会議を開催する際には、御家族様に参加して頂き、ご意見・ご要望をできるだけ取り入れるようにしています。	1ヶ月毎のモニタリングを行い、サービス担当者会議に於いて家族も同席し、担当職員、ケアマネジャーで、サービス計画の見直しを図っている。意向を反映した介護計画を作成して職員間で共有を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護記録以外にも日報へ特変事項を記入し、職員間での情報の共有を行っています。個々の利用者様に対しては担当職員がモニタリングを記入し計画に反映できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・心身状態の変化を常に御家族様へ連絡し、サービス内容の変更についてお話しており、緊急性が高い対応の場合には関係職員で協議し対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・運営推進会議時に民生委員の方や総代様に地域情報を聞き把握するように努めています。施設外での催し物があれば積極的に参加するようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・月1回の往診を始め、必要に応じて受診を行っています。	殆どの利用者が協力医をかかりつけ医とし、月1回の往診がある。これまでの医療機関を利用する場合は家族対応であり相互の情報共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・毎日2回看護職員へ申し送りをし、内服や受診の相談を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・利用者様が入院された場合には、病診連携を密にとり情報共有しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化された場合には担当者会議を開催し、今後の援助方法について協議するようにしています。	重度化・終末期の対応については入居時に「重度化対応指針」を説明し同意を得ている。担当者会議で「今後どのような暮らしがしたいか」の確認を行い利用者にとって最善の住み替えになるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時にはフローチャートを参照し、関係者への連絡体制を作り急変時に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回日中想定と夜間想定での避難訓練を実施しています。地域の方との関係づくりについては、今後の課題となります。	年2回の避難訓練を実施している。利用者全員の参加で避難訓練を実施し、初期消火訓練をしている。	災害時の職員の確保や地域との協力体制の構築などの課題に対して今後の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・馴染みの関係を築きつつ、相手の方に不快な思いをさせないような言葉遣いを行えるように努めています。プライバシーに関しては社内研修等で理解を深めるようにしています。	年2回の研修会でプライバシーについて意識付けを行い、職員アンケートも実施している。接遇研修も実施されており、個人情報の取り扱いにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・何かを押し付けるようなことはせず、個々の能力や心身状態を把握した上で、自主決定が行えるように声掛けをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・入浴に関しては、ご本人が入りたい時間帯での入浴ができるように調整を行っております。一人で過ごしたいとの希望があれば、安全が確認できる範囲で見守りを行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・衣類に関しては、身支度はご本人が着たい衣類と一緒に用意するようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・野菜と一緒に切ったり、盛り付けを一緒に行ったりしてしています。食後には食器を洗って頂いたり、拭いて頂いたりそれぞれの担当に分かれてお仕事をさせて頂いています。	事業所内にある畑づくり、野菜の収穫、食材を切る、配膳、下膳、食器洗い、食器拭き等利用者の力量に合わせた役割があり、前向きな意思や気持ちを引き出す工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・飲水が少ない方には、一回の量を減らし何回か回数を増やして1日の水分摂取量を確保できるように努めています。皆様お茶がお好きなようでお茶をよく勧めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食の口腔ケアが必要な方には最後まで磨き残しがないように援助しています。 ・ご希望者には訪問歯科診療を使って頂き、ケアを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・定期誘導以外にも、排泄間隔を把握して食間にも排泄介助を取り入れています。車椅子の方でも職員2名介助にてトイレでの排泄介助を行って自力排泄を取り組んでいます。	トイレでの排泄を基本としており、さりげない声掛けでの誘導や見守り支援を実践している。介護度5のオムツ使用の利用者、にトイレに行く習慣付けを行なうことで改善された事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・朝はヤクルト昼にはミルミルを提供して自立排便を促す取り組みを行っています。個人差はありますが便秘が改善された方もおられます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴の前には必ず声掛けを行い、入浴できる環境づくりを行うようにしている。	利用者の希望を考慮した隔日、週3回の入浴機会がある。毎日の入浴にも対応可能であるが今は希望がない。柚子や菖蒲等季節感を楽しむ工夫もある。リフト浴もあり重度化に対応することができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・心身状態によっては、静養する時間を作り安楽して生活できるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・常に調剤書を職員がすぐに確認できるように保管しており、内容に関して不明点があれば薬剤師へ確認を取るようになっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・毎月イベント食を企画しており、利用者様に食べたい物を伺い希望に沿えるようにしています。天気の良い日には屋外への散歩を行い気分転換を行えるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・お一人で外出を希望される方には安全が確認され、職員が付き添える環境を作るようになっています。御家族様にはできるだけ外出の機会をお願いしています。	年2回の遠足ではいちご狩りや日帰り温泉旅行に近くの温泉へ出掛けている。中庭の散歩は自由であり利用者が畑に収穫に出掛けることができるように環境整備されている。カラオケボックスに家族と外出する利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・買い物へ行く機会を作り、商品の値段を見ることでお金の大切さを理解して頂けるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・手紙のやり取りができるように、一緒に手紙を書く支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・利用者様が懐かしい環境を作る為に装飾や、音楽を流すようにしています。空調はできるだけ自然の風を取り入れるように、換気を行っております。	中庭に季節を感じる野菜が作られ、畑が見渡せるリビングには利用者の笑顔の写真やホーム便りを拡大し利用者の行事ごとの笑顔が溢れ温かみを感じることができる。習字や絵が飾られ快適な環境になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・各居室は出入りは自由にしております。余暇時には気の合った方同士で交流の時間をもたれています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時にはご自宅で使われていた家具を持ってきて頂くようにお伝えしております。施設での様子を撮った写真を掲示してできるだけご本人様の部屋とわかるような取り組みをしています。	洗面台が設置されており、ベット、仏壇など大切に馴染みのあるものが持ち込まれている。外出時の利用者の写真や家族が持ってきた花や孫のはがき等が置かれ、温かい雰囲気をかもしだすように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・各居室に、自室と分かるように写真を飾らせて頂いたり、トイレには入り口に【トイレ】の張り紙を張らせて頂き、安全に使えるようにしています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2372102216		
法人名	株式会社 ナンプ		
事業所名	グループホーム リズム		
所在地	岡崎市若松町字西之切50		
自己評価作成日	平成30年10月20日	評価結果市町村受理日	平成30年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2372102216-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2372102216-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成30年11月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>・長閑な環境の中で、利用者様がその人らしい生活が行えるように援助しております。誰かひとりの方が、退屈な時間を過ごされないように職員一人一人が、工夫して個々の能力に応じていろんなことに取り組んで頂いております。季節に応じた菜園の畑の耕し作業、種まき、収穫とお願いしています。</p> <p>・御家族様の結びつきを大切にしています。手紙のやりとりや御家族様と一緒に外出へ行って頂いたり、病院への付き添いなど入居後も心身安定の為をお願いをしています。年末には御家族様やご友人を招いての忘年会を企画して、一緒に楽しんでおります。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見える位置に事業所の理念「いたわりあい・たすけあい・おだやかに・ともにくらす」を掲示し、常に確認できるようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・総代さんとの関係を密に取り、地域行事には積極的に参加している。 ・学区の資源回収に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・会社として、認知症カフェを行ったり認知症サポーターの講座を開催したりしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域総代・民生委員・介護相談員・ご入所者様、ご家族様の方々に主席して頂き、運営状況などの報告を行っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退所の報告や介護保険についての相談、派遣事業の介護相談員の受け入れを行っております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、二か月に一度会議を行い、現状の把握や確認、改善を行っています。施設全体で身体拘束についての研修会を開催し理解を深めるよう職員に教育しております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束排除委員会と併せて現状の把握や確認、改善を行っています。施設全体で虐待防止の研修会を開催し、虐待の理解と防止の教育を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修会を開催しています。外部研修などへの参加を行い、制度への理解を深められるように努めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定時には、ご本人様及びご家族様へ納得して頂けるまで説明し、その上で同意を得られるよう努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会などで意見交換をする機会を設けております。また、担当者会議や面会時などに随時ご意見ご要望を頂き、随時対応やご返答を行っています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所ミーティングを月に1回開催し職員への伝達や意見交換などの場を設けています。又職員からの意見を取り入れ、業務改善や毎月の行事、ケアの方法等意見を言いやすい雰囲気を作っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数・職責・人事評価結果に応じた給与設定、資格取得に対しての報酬制度などがあります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員指導員を設け、マンツーマンで指導しております。また、個々のレベルに応じた各種研修会を開催し、新人・中堅・指導員・サブリーダーへの教育を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム小部会・連絡協議会中三河ブロック交流会に参加し、施設見学や研修会を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居される前には面談を行い、ご本人の困っていることや要望を伺う機会を作り計画を作成しております。安心して生活して頂けるように職員から積極的に話しかけております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・担当者会議時にはご家族様のご要望を伺うようにしています。 ・ご面会時には、管理者がご挨拶をすると共にご要望を聞ける関係づくりができるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・状況に応じてご家族様に適したサービスが提供できるように適宜ご相談をさせて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・家庭的な雰囲気の中で、それぞれ役割を持って頂くことで、生活を共にする関係を築けるように援助しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会の機会を多く作り、遠方の方には手紙のやりとりを行っています。 ・外出を定期的に行えるように、常に情報共有を密にとっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・御家族様以外にも面会ができる体制を作っております。馴染みの美容院に行かれている方もおり、これまでの関係を続けられるように支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・個々の状態や能力を職員が把握し、利用者同士が交流を図れるように支援できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・サービス終了後も窓口を開き、生活相談が行える体制を作っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・何かお願いする時には、必ず意思を確認し無理強いをしないようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・居室には家族の写真やこれまで使われていた家具などを持ち込んで頂き、生活環境に変化が生じないように努めています。これまで使われていたサービスに関しては、情報を取り入れ培った能力が維持できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・心身状態によっては、静養する時間を作り安楽して生活できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・担当者会議を開催する際には、御家族様に参加して頂き、ご意見・ご要望をできるだけ取り入れるようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護記録以外にも日報へ特変事項を記入し、職員間での情報の共有を行っています。個々の利用者様に対しては担当職員がモニタリングを記入し計画に反映できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・心身状態の変化を常に御家族様へ連絡し、サービス内容の変更についてお話しており、緊急性が高い対応の場合には関係職員で協議し対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・運営推進会議時に民生委員の方や総代様に地域情報を聞き把握するように努めています。施設外での催し物があれば積極的に参加するようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・月1回の往診を始め、必要に応じて受診を行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・毎日2回看護職員へ申し送りをし、内服や受診の相談を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・利用者様が入院された場合には、病診連携を密にとり情報共有をしております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化された場合には担当者会議を開催し、今後の援助方法について協議するようにしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時にはフローチャートを参照し、関係者への連絡体制を作り急変時に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回日中想定と夜間想定での避難訓練を実施しています。地域の方との関係づくりについては、今後の課題となります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・馴染みの関係を築きつつ、相手の方に不快な思いをさせないような言葉遣いを行えるように努めています。プライバシーに関しては社内研修等で理解を深めるようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・何かを押し付けるようなことはせず、個々の能力や心身状態を把握した上で、自主決定が行えるように声掛けをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・入浴に関しては、ご本人が入りたい時間帯での入浴ができるように調整を行っております。一人で過ごしたいとの希望があれば、安全が確認できる範囲で見守りを行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・衣類に関しては、身支度はご本人が着たい衣類と一緒に用意するようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・野菜と一緒に切ったり、盛り付けを一緒に行ったりしてしています。食後には食器を洗って頂いたり、拭いて頂いたりそれぞれの担当に分かれてお仕事をさせて頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・飲水が少ない方には、一回の量を減らし何回か回数を増やして1日の水分摂取量を確保できるように努めています。皆様お茶がお好きなようでお茶をよく勧めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食の口腔ケアが必要な方には最後まで磨き残しがないように援助しています。 ・ご希望者には訪問歯科診療を使って頂き、ケアを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・定期誘導以外にも、排泄間隔を把握して食間にも排泄介助を取り入れています。車椅子の方でも職員2名介助にてトイレでの排泄介助を行って自力排泄に取り組んでいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・朝はヤクルト昼にはミルミルを提供して自立排便を促す取り組みを行っています。個人差はありますが便秘が改善された方もおられます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴の前には必ず声掛けを行い、入浴できる環境づくりを行うようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・心身状態によっては、静養する時間を作り安楽して生活できるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・常に調剤書を職員がすぐに確認できるように保管しており、内容に関して不明点があれば薬剤師へ確認を取るようになっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・毎月イベント食を企画しており、利用者様に食べたい物を伺い希望に沿えるようにしています。天気の良い日には屋外への散歩を行い気分転換を行えるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・お一人で外出を希望される方には安全が確認され、職員が付き添える環境を作るようになっています。御家族様にはできるだけ外出の機会をお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・買い物へ行く機会を作り、商品の値段を見ることでお金の大切さを理解して頂けるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・手紙のやり取りができるように、一緒に手紙を書く支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・利用者様が懐かしい環境を作る為に装飾や、音楽を流すようにしています。空調はできるだけ自然の風を取りいれるように、換気を行っております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・各居室は出入りは自由にしております。余暇時間には気の合った方同士で交流の時間をもたれています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時にはご自宅で使われていた家具を持ってきて頂くようにお伝えしております。施設での様子を撮った写真を掲示してできるだけご本人様の部屋とわかるような取り組みをしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・各居室に、自室と分かるように写真を飾らせて頂いたり、トイレには入り口に【トイレ】の張り紙を張らせて頂き、安全に使えるようにしています。		